

【家総009-901】家庭総合—明日の生活を築く— 年間指導計画案												
教科			科目	単位数	使用教科書							
家庭			家庭総合	4	開隆堂出版（家総009-901）「家庭総合—明日の生活を築く—」							
学期	月	時数	単元名（時数）	項目名	時数	教科書ページ	学習指導要領	内容・留意点				
1 (24)	4	6	ガイダンス・青年期(6)	1 人の一生と青年期	1	見返し～8、10～11	A(1)(2)	●「家庭総合」を学習するにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解する。 ●人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴や課題と関連を図ることができるよう、この科目の学習の導入として扱う。 ●生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深める。				
				2 自分らしく生きる	2	12～15						
				3 将来を考えながらこれからを生きる	3	16～21						
	5	6	家族・家庭(10)	1 自分が拓く人生	1	22～23	A(2)(5)	●家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。 ●家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 ●生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ●家庭と地域とのかかわりについて理解するとともに、高齢者や障がいのある人など様々な人が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。 ●家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々とののかかわり方を工夫する。				
				2 個人・家族と地域・社会	3	24～29						
				3 家族と法律	2	30～33						
	6	8	高齢者(4)	4 共生社会を生きる	4	34～45	A(4)	●高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切にかかわるための生活支援に関する技能を身につける。				
				1 様々な高齢期	4	80～83						
	7	4	ホームプロジェクト(4)		4	248～253	D	●ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ●自己の家庭生活や地域の生活と関連つけて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。 ●各内容の学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行う。				
2 (28)	9	8	高齢者(10)	1 様々な高齢期	2	80～83	A(4)	●高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身につける。指導の際には、食事、着脱衣、移動など高齢者の心身の状況に応じて工夫ができるよう実習を扱うこと。 ●高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めることについては、高齢者福祉の基本的な理念に重点を置くとともに、例えば、認知症などの事例を取り上げるなど具体的な支援方法についても扱う。 ●高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法やかかわり方を工夫する。 ●学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、福祉施設などの見学やボランティア活動への参加をはじめ、身近な高齢者との交流の機会をもつよう努めるようにする。				
				2 高齢期の生活を支える	8	84～91						
	10	8	食生活(14)	1 食の変遷とおいしさの追求	2	94～97	B(1)	●食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人とののかかわりについて理解する。 ●ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身につける。 ●主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について考察し、工夫する。 ●和食などを取り上げ、日本の伝統的な「食文化」やその継承・創造を扱う。				
				2 食べ物は健康の決め手	6	98～109						
	11	8		4 日本と世界の食文化	2	126～133						
				5 食生活をプロデュース	2	134～149						
				6 持続可能な食生活	2	150～153						
	12	4	ホームプロジェクト(4)		4	248～253	D	●ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ●自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。 ●各内容の学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行う。				
3 (18)	1	6	食生活(18)	3 調理にトライ！	18	110～125	B(1)	●ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身につける。 ●栄養、食品、調理及び食品衛生との関連を図って扱うようにする。また、調理実習については食物アレルギーにも配慮する。				
	2	8										
	3	4										

教科			科目	単位数	使用教科書			
家庭			家庭総合	4	開隆堂出版（家総009-901）「家庭総合―明日の生活を築く―」			
学期	月	時数	単元名（時数）	項目名	時数	教科書ページ	学習指導要領	内容・留意点
1 (24)	4	6	住生活(10)	1 様々な住まいと暮らし方	2	190～195	B(3)	●住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人とのかかわりについて理解を深める。指導の際には、和室などを取り上げ、日本の伝統的な「住生活」やその継承・創造を扱う。 ●ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 ●家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。 ●主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫する。
				2 健康で快適な住まい	4	196～199		
	5	6		3 住まいの防災・減災	2	200～203		
				4 持続可能な住まいとまち	2	204～209		
	6	8	消費生活と持続可能な社会(14)	1 生活を支える経済	4	212～217	C(1)(2)(3)	●家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深める。キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点を扱う。 ●生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。指導の際には、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについて具体的な事例にもふれるようにする。 ●生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し、工夫する。 ●消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。 ●消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。多様な契約やその義務と権利を取り上げるとともに消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱う。 ●自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫する。 ●生活と環境とのかかわりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深める。 ●持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫する。生活と環境とのかかわりを具体的に理解させることに重点を置くこと。 ●家族・家庭及び衣食住の内容と相互に関連を図ることができるよう工夫する。
				2 社会・世界とつながる家計	4	218～223		
				3 消費社会を生きる	3	224～231		
	7	4		4 持続可能な消費生活	3	232～237		
2 (28)	9	8	保育(18)	1 子どもの世界	4	48～49	A(3)	●乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身につける。 ●子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。指導の際は、子どもの福祉の基本的な理念に重点を置く。 ●子どもを生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察するとともに、子どもとの適切な関わり方を工夫する。 ●学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、幼稚園、保育所及び認定こども園などの乳幼児、近隣の小学校の低学年の児童とのふれ合いや交流の機会をもつよう努める。 ●乳幼児期から小学校の低学年までの子どもを中心に扱い、子どもの発達を支える親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。
				2 あたらしい生命の誕生		50～53		
				3 子どもの発達	4	54～61		
	10	8		4 子どもとかかわる	8	62～71		
				5 社会の中で子育て	2	72～77		
	11	8	衣生活(20)	1 被服の機能と着装	2	156～163	B(2)	●衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人とのかかわりについて理解を深める。 ●ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解するとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ●被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身につける。 ●主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の「衣文化」の継承・創造について考察し、工夫する。 ●和服などを取り上げ、日本の伝統的な「衣文化」やその継承・創造を扱う。
				2 快適な被服の科学	2	164～167		
				3 被服の入手と管理	2	168～175		
				4 持続可能な衣生活	2	176～177		
	12	4		5 被服をつくる	12	178～187	B(2)	●被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身につけるようにする。指導の際は、衣服を中心とした縫製技術が学習できる題材を扱う。
3 (18)	1	6	生活設計(8)		8	240～247	A(1)	●人の一生について、自己と他者、社会とのかかわりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 ●生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理が適切にできるようにする。 ●生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 ●各内容の学習と関連づけるとともにこの科目のまとめとしても扱う。
	2	8						
	3	4						